

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で平澤議員の質問が終わりました。

暫時休憩いたします。

再開を13時といたします。

（午後0時03分 休憩）

（午後1時00分 開議）

○議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、佐藤 孝議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

佐藤議員。〔7番 佐藤 孝君登壇〕

○7番（佐藤 孝君）

日本共産党の佐藤孝です。

通告書に基づき、1回目の質問をさせていただきます。

1、大雨による洪水・土砂災害対策について。

7月1日の豪雨に続いてさらに大きな被害をもたらした10月23日の台風21号では、11月21日に激甚災害に指定されました。もはや、記録的とか異常気象とか、そういったもののせいにしてはいられなくなってきました。

(1) 10月23日朝、川詰への3ルートのうち能生川の東側の2つのルート、下倉ルートと須川ルートは崩落土で通行不可になりました。残る溝尾ルートは能生川の増水により、羽黒橋の左岸側橋台上流部がむき出しになり、さらに羽黒橋の上流のガスパイプラインのつり橋の支柱が被災し、濁流がガス管を洗う状態となりました。

① 状況把握から川詰地区避難勧告（15時）までの流れについて伺います。

② 羽黒橋の上流左岸の護岸被災の原因について、どうお考えでしょうか。

③ ガスパイプラインの復旧工事が再びつり橋式になるのか、確認はしておりますでしょうか。

④ その後発生した川詰川の山腹崩壊につきましては、流入土砂の撤去が進んでいるようですが、その下流では、台風21号のときからの堆積した土砂と流木で河川の流水断面が小さくなっております。来春の雪解けや山腹の二次崩落に備え、対策が必要ではないでしょうか。

(2) 市民の命・なりわいを守るためには、能生川に限らず、市内の河川の堆積土砂の除去、立ち木の処理は、もはや先延ばしできない状況と思いますが、どうお考えですか。

2、えちごトキめき鉄道日本海ひすいラインと新駅設置計画について。

糸魚川市地域公共交通網形成計画によりますと、平成27年度の市内の駅での乗客数は、1日当

+

たり350人ほど増加しています。新幹線開業に伴って糸魚川駅での乗客数の増加が数字にあらわれたものであります。この上に乗客者数を伸ばすには、新駅の設置に頼る点も大きいと思うのですが、以下の点につきましてお伺いします。

- (1) 日本海ひすいラインの平成28年度の乗客者数は、どう変化しましたでしょうか。
- (2) 新駅設置計画の進捗状況についてお聞かせください。
- (3) 新駅設置予定地周辺の住民を対象としたアンケートで「新駅を利用しない」との答えが少なくなかった点について、どう考えますか。
- (4) 押上駅は糸魚川高校が亀ヶ丘から移ってから40年以上にわたる悲願です。親の交通費の負担を減らし、将来にわたって生徒数を確保するためにも新駅設置を急いでほしいが、いかがでしょうか。

以上、1回目の質問といたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

佐藤議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の1つ目につきましては、23日7時20分に、能生川羽黒橋の左岸堤防が決壊のおそれありとの第一報を受け、現場確認と警戒、住民の安全確保を行いました。状況を注視する中、堤防損壊のおそれがあったことから、羽黒橋が通過可能であった15時に、避難勧告を発令いたしました。

2つ目につきましては、台風に伴う能生川流域での豪雨による河川の増水が原因と考えております。

3つ目につきましては、現在、国際石油開発帝石株式会社で検討いたしております。

4つ目につきましては、県において、川詰川の土砂の撤去や大型土のう設置による応急工事を実施し、引き続き安全確保に努めております。

2点目につきましては、引き続き県へ強く要望してまいります。

2番目の1点目につきましては、前年度並みの状況となっております。

2点目につきましては、概略設計が完了し、現在えちごトキめき鉄道と計画協議を進めております。また、来年度以降に予定しております詳細設計につきましては、国及び県と協議を進めております。

3点目につきましては、当市の交通体系における自家用車の利用を考慮すると、多いとは捉えておりません。

4点目につきましては、国、県及びえちごトキめき鉄道と新駅設置に向け協議を進めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願ひ申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

ありがとうございました。

2回目の質問をさせていただきます。

7時半に護岸決壊が確認されたってということなのですが、パイプラインの関係、パイプラインが危ない状態になっている、そういうような報告と、下倉線、須川線が崩落土で通り抜けできなくなっているというようなことの関係は、いつ知られましたでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

土田能生事務所長。〔能生事務所長 土田昭一君登壇〕

○能生事務所長（土田昭一君）

お答えいたします。

個々の時間の経過についてはちょっと承知しておりませんが、関連する災害がいろんなところで起きておまして、それを確認するためにパトロールに出ています。その中の報告の中にあつたかと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

当日は本当に市内何カ所でも被害がありましたので、そういう状況だとは思いますが。

それで、西山で4 1 2ミリの雨が降って、能生の中でも林道や農道、家の裏山等、災害があちこちで起きておりましたので、無理もないことかと思えます。

10月23日には、私は溝尾の県道の交通どめ箇所を一旦確認して、その後10時ごろに羽黒橋を見にいったんですが、ガス管のつり橋の支柱がガス管とともに濁流にはたかれて、支柱自体が大きく傾斜しておりました。私は、もうガス管がやられていると思ひまして、100メートルほど離れたところで車をとめて見にいったんですが、現場にいた帝石の人たち、状況を尋ねますと、川詰と横でバルブを閉めて、被災部分の圧力を下げたところだと、そう言っておりました。つり橋は羽黒橋から20メートルから30メートルほど上流で、能生川を横断しております。天然ガスは軽いので、漏れても閉鎖された環境でもなければ大丈夫なのかもしれませんが、八箇峠トンネルの爆発事故のこともありますので、お聞きしたいと思ひます。

国際石油開発帝石株式会社が被害に気づかずに、パイプラインが破損して爆発するというような可能性はなかったのでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

木村ガス水道局長。〔ガス水道局長 木村 清君登壇〕

○ガス水道局長（木村 清君）

お答えいたします。

今回の帝石パイプラインの被災のときなんですけれども、7時20分に現地でガス管が能生川であらわれてるという報告が、帝石のほうへ能生事務所のほうから連絡が入りまして、帝石のほうでは7時40分にガス管をとめますという報告が入っております。ただ、そこからまた現地のほうでの作業もありますので、9時にはガスのパイプラインがとまったというふうなことで、その後報告を受けております。

で、万一、当日は幸い破損に至らず、ガスを停止できたんですけれども、万が一その破損した場合については、帝石さんが言うように確かに軽いですから、ガスが上へ上がることは上がるんですけれども、そうなる前にとめられることができたということで、よかったかなと、幸いだったというふうに感じております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

ありがとうございました。

実は能生の柵口では、天然ガスを利用している家も結構あるんですが、一応確認させていただきました。

このつり橋ができたのは、私が子供のころです。きれいな放物線の親綱につられたパイプラインで、結構高さもあったような気がしておりましたが、このような災害が起ころうとは思いませんでした。また、現場では、羽黒橋左岸上流側の護岸の損壊部分から浸透した水が県道東谷内溝尾線の下をくぐって、羽黒橋下流側の川表側にも川裏側にも噴出しておりました。これは、県道東谷内溝尾線の羽黒橋取り付け部が損壊するおそれもあるなと思いました。雨が続いて増水が続けば、羽黒橋の溝尾側での交通どめもあるかなと思われました。

ところで、護岸の崩壊によって見えてきた築堤部というかコンクリート構造物埋め戻し部分に、大きな石がごろごろと重なっておりまして、そのうち大きな物は長径80センチもあるような状態でした。現在の土木工事の仕様書では、築堤や構造物の埋め戻しについて、その巻き出し厚や盛り土材料の塊の大きさについて、どういう決まりになっているのでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

○建設課長（見辺 太君）

お答えします。

堤防ですと、50センチ程度の巻き出し厚で転圧していく必要がある、30センチですか、すみません、30センチで転圧していく必要があるというふうに考えています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

もう一つお聞きしたいんですが、その盛り土材料の塊の大きさに規定はなかったんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

○建設課長（見辺 太君）

お答えします。

盛り土材につきましても、均一に転圧できるような材料を確保するよというよなことであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

私ももともとそんな仕事してたもんですから、巻き出し厚っていうのは一層、締固めないはずですけども、この半分程度以上の石は、入れてしまうと均一な密度にならないっていうことで、半分程度に、大きさよりもでっかいのは、避けてたような気がします。この工事は、多分昭和40年代の工事だったかもしれません。現在の仕様書を適用すべきではないかもしれませんが、締固め密度や、先ほど水が噴出していたと言いましたが、透水性に問題がある弱い堤防であると思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

○建設課長（見辺 太君）

お答えします。

今現在の仕様書あるいは取り扱いとは異なる材料、あるいは工法で設置された堤防だとは思いますが、どの程度弱いのか、強いのかといったことについては検証しておりませんので、ちょっとよくわからない状況であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

説明ありがとうございました。

堤防というのは、やっぱり水密性が重要な点があると思うんです。で、東谷内溝尾線の路体の中を、路体といいますか堤防といいますか、重なりますけど、その中を、羽黒橋の下流側の、川表側、川裏側に水が噴いたっていうような状態を考えると、これは余りいい状態ではないなとは思っております。

避難勧告の時間が午後3時ということなんですが、こうした状態で羽黒橋の取り付けの部分もちょっとどうなんかなという状態だったもんですから、水位が落ちつくのを待って避難勧告、

それは正解だったかもしれませんが。

それでは、②に移ります。

羽黒橋とそのもう一つ上流の橋、双方とも橋の上下流100メートルぐらいはもう前から、去年もうちからきれいに整地してございました。しかしながら、その橋から100メートル以上離れたところになると、それ以外の場所では堆積した土砂は長い間放っておかれてありました。羽黒橋から上流を眺めると、300メートルほど上流で、本流は右岸側、端っこめいっぱい流れ、左岸側は土砂が堆積し、多くの木が生えております。さらにその上流に行きますと、本流は逆に左岸側を流れ、右岸側に土砂が堆積し、木が生えております。実際の流路の幅は、川の全幅の3分の1ぐらいのところを流れて、蛇行しているわけです。こういった河川敷の中で流路が蛇行し、羽黒橋左岸を直撃するような形状で能生川が流れていたんですが、それが災害の原因の一つだと考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

○建設課長（見辺 太君）

お答えします。

川の護岸の破損については、いろんな原因が考えられます。その中で今、議員がおっしゃられた流木とか土砂の堆積とかいろいろあると思いますが、根本的なやっぱり原因といったものにつきましては、やはり大量の雨が流れたこと、大雨によるものだというふうに認識しております。それが原因して幾つかの要因に分かれて、それが複合的に作用して被災したものだということふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

私が見た感じでは、羽黒橋の上流に見える範囲は一番上流側では右岸側のめいっぱい川が流れて、それから左岸側へぐっと流れが曲がってきております。私は、やはりその蛇行する流路をそのままにしていたのが原因じゃないかと思っております。

続きまして、避難場所は上南公民館だったわけですが、当日下倉ルート、須川ルート、ともに土砂災害で通行不能になっておりました。この2つのルートは、能生川の東側の山の法尻近くを通っていきまして、大雨が降るたびに崩落土砂で通り抜けができなくなっておりました。残るは県道東谷内溝尾線、これは一番古くからの道路で、東谷内を抜けて、名立の西蒲生田へ抜ける昔からの道で、現在も一番大事な生活道路であります。この路線だけはどうしても確保してもらわなければならないと思います。川詰集落は、あの狭い川詰川の両岸で孤立してしまいます。この溝尾への路線を確保するためには、河川内での流路の蛇行の改善、それから被災した羽黒橋左岸の上流側の築堤について、道路工事標準仕様書に基づいた堅固な護岸復旧が必要と思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

○建設課長（見辺 太君）

お答えします。

新潟県においては、今現在、応急工事を進めております。その中で、現地を見ていただくとわかると思いますけれども、河道を、議員おっしゃられるとおりになるべく真っすぐにしたり、あるいは雑木が邪魔になっておれば排除したりと、いろんなことを能生川全体で考えてやっていただいております。全体でやっているわけではなくて、やっぱり緊急性の高いところから順にやっているわけでごさいます、その中で応急工を今やっている最中であるといったことでごさいます。

それからまた引き続き災害復旧工事に当たる前に、災害査定といったものもこれから予定されております。まさに今週、来週とか、災害査定の時期だというふうにお伺いしております。査定をしっかりと受けていただいて、議員おっしゃられるとおりに、しっかりとした築堤なりをしていただきたいというふうに思っておりますし、そのように要望しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

どうもありがとうございます。

③に移ります。

被災したパイプライン及びつり橋は、何とか壊れずに、雨がやんだときに残りました。それで、支柱を含め撤去はほぼ完了したようであります。今回のような災害がありますと、パイプラインの能生川横断は、つり橋式ではなくて地下埋設式にして復旧してもらえれば、能生川の氾濫の影響でパイプラインが壊れることもなくなるし、堆積した土砂の撤去にも楽になると思うんですが、しかもこの地域の人たちも、パイプが見えなくなると安心感が生まれると思いますが、どうお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

木村ガス水道局長。〔ガス水道局長 木村 清君登壇〕

○ガス水道局長（木村 清君）

お答えします。

現在、今撤去されたパイプラインにつきましては、もともとのパイプラインですけれども、新青海ラインといって、新しいパイプラインが今の羽黒橋から下流の約600メートルぐらいのところに地下、要は羽黒側の下は水深で横断しております。で、今被災した、撤去したパイプラインを、先ほど市長からも答弁がありましたように、帝石のほうでそのまま復旧するか、あるいは撤去するかという、新しいルートにするかっていうことも含めて検討中でありまして、その結果を見たいなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

復旧するとしたら、ぜひ地下式にさせていただきたいと思います。

④に移ります。

川詰集落は、先ほど申しましたように、川詰川の両側のわずかな平地に住宅が点在する集落です。高齢者のひとり暮らしが多く、上南公民館への避難もままならない世帯が多いと思われます。集落の中の川詰川は、堤防の天端から1メートルもないくらいに土砂が埋まった場所もあります。場所は11月27日の山腹崩壊地点から300メートルほど下流です。その地点で川詰川に合流する支流からの土砂が多かったようで、この間の台風21号に起因するものです。当初は水分を多く含んでいた、泥状だった堆積物が、時間の経過とともに水分が抜けて、締まってきます。先週見ましたら、土砂がたまった部分の左岸側半分は、水の力で河床が削られて、河床が下がっておりました。右岸側は土砂がたまったままであります。来春の雪解けで増水する前に、川詰川と支流の合流地点のその付近の流水断面を下げるべきかと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

○建設課長（見辺 太君）

お答えします。

ことしの大雨で、糸魚川市内あちこちにそういった箇所が発生しております。特に2級河川が多くて、川詰川も同様に土砂が堆積していると。青海川でも極端に土砂が堆積しました。

そんな中で県のほうに今現在、しっかりと応急措置として、議員おっしゃられるとおり、春先の出水とかそういったことも含めて検討した中で、どういった形であれば安全な対策がとれるのかといったことについてお話をし、また一部着手していただいておりますところでございまして、お話の川詰川につきましても同様に県のほうにお願いして、しっかりと対応していただくようにさせていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

ありがとうございます。

川詰川もそんなに長い区間ではないものですから、冬の渇水期にでも入ってやってもらえればと思いますので、よろしく申し上げます。

(2)に移ります。

河川の中に土砂が堆積し、木が大きくなり、その中を水流が蛇行している、こんな状態の河川が特に県が管理するある程度河床幅を持った河川に多く見られます。

また、羽黒橋左岸上流側の築堤部、コンクリート構造部の埋め戻し部分は、大きな木が重なって埋められておまして、このような施工では盛り土材料の中に空隙が生じやすく、堤防として透水性が高過ぎることになり、堤防破壊につながると思います。橋の銘板によると、羽黒橋は昭和

41年の竣工です。50年も前の工事です。このころ施工した堤防では、こんな場所もまだまだあるのかなと思います。付近の復旧した護岸にはブロック張りもあり、また自然石の練り積みの場所もあり、自然石の空積みの場所もあります。場所ごとに護岸の信頼度はまちまちのような気がしております。

ことは1年間に何度も堤防が壊れたわけです。しかも今回は、同時に幾つもの河川で多数の護岸の損傷がありました。地球温暖化の影響があるとも言われていますが、記録的な大雨、局所豪雨と言われるのが、来春の融雪期と重ならないとも限りません。今度こそは県に河川内の立ち木の伐採、堆積土砂の撤去を先延ばしすることなく行ってもらえるよう、要望していただきたいと思っております。

ただ、土砂の排出先がないというような話も聞いておりますが、先ほど課長がおっしゃられたように、河川敷の中心部に流路をつくるだけでも護岸にかかる負担が減るのではないかと思います。どうか県のほうへそういった要請をしていただきたいと思います。

続きまして、大きい2番の、えちごトキめき鉄道日本海ひすいラインと新駅設置計画について移らせてもらいます。

乗客数のほうは、平成28年は27年とほぼ同じだったということでございます。進捗状況についても、先ほどお聞きいたしました。アンケートで、地元の人がえちごトキめき鉄道を利用しないということについても、自家用車のほうが通勤に便利だからだろうということで、わかりました。それで、新駅設置予定地周辺の住民アンケートですから、ほかから入ってきてそこを使おうという人の意向は反映されていなかったわけですね。あの学校、生徒とか、そういうことで。私が聞くところによると、糸魚川高校が平牛に移ってから、能生から通学した生徒の中には、自宅から能生駅まで自転車で通って、糸魚川駅から高校までまた別の自転車に乗ってと、そういう使い方で3年間通ったと。子供3人ともそうやって通わせたと。自転車は次の子にも渡すわけにもいかんし、計6台自転車買ったなというような話を聞いております。

こうした高校生や保護者からの新駅設置の要望があつたにもかかわらず、長年前に進まなかった理由について教えていただきたいんですが、お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

以前なかなか進まなかった理由というのは、なかなか難しいと思いますが、やはりJRの時代だったからかなと、今では思っております。なかなかやはり新駅設置というのは、JRの時代には厳しい状況であったと捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

私はもう1つの理由として、押上駅の予定地の能生寄りに交流と直流の切りかえ場所があつて、あそこはもう惰性で進むようになってますんで、その点もあつたのかなと思っております。

それで、最近大糸線に乗って気づいたんですが、松本から南小谷の間は本当に駅が細かくあって、松本と次の駅の間は700メートルとか、1キロとか2キロとかに駅があるんですね。だからJRだったからといっても、JRでもそういう細かく駅を設置しているところもあるしというようなことで、今度はトキメキ鉄道はディーゼルなんで、電線の交流直流の問題はないということ、そういうのは進んできている理由かなと思っております。

ところで新駅の開業時期はいつごろを目指しておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

○建設課長（見辺 太君）

お答えします。

平成25年の11月に、県に新駅設置に対する支援制度の創設の要望をしてから、ことし平成29年までいろんなことをやってまいりました。それでことしは、駅周辺に対するまちづくりの構想といいますか、そういったものがどんな形にできるかといったものも今、検討しているところでございます。

それで、今後駅本体、基本施設と言っておりますけれども、そういったものの詳細設計であったり、国の認可もとる必要がございます。用地取得あるいは支障物件の移転、本体周辺工事等含まれますと、ある程度の年数が必要かと思いますが、これが何年かかるかといったところについては、ちょっと今のところ定めることが難しいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

糸魚川駅から新潟への快速列車がなくなり、えちごトキメキ鉄道日本海ひすいラインを沿線の住民で守り続けていくことが、市の将来のためにも大変重要になってきていると思います。人口の減少とともに乗客数が減るのは予想できるわけです。市民の便を図りながら乗客数をふやす、これが新駅設置計画の目指すところであろうかと思いますが。私が通学した昭和40年代半ば、糸魚川高校へは直江津や谷浜、桑取、名立からも結構通学者があったような記憶があります。平牛に移転してから通学が不便になって45年、糸魚川市外から通学する生徒数についてと、市内から市外の中高一貫校等へ通学する生徒数がわかったら教えていただきたいんですが、お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

市外から糸魚川高校に通われている方の数については、今資料を持ち合わせておりません。

失礼いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

押上駅の設置と糸魚川高校の通学の問題は、切り離せないと思います。市内の3つの高校の2016年度の入学者数の合計は、390名でした。出生数は2015年、これは前年より39人も減って247人と、激減してしまいました。人口ビジョンの当市人口の将来展望が目指すもの、これは多分出生数年間300人だと思いますが、それからは離れてきているようであります。こういう状況ですから、なおさら市内で唯一の進学校である糸魚川高校に生徒を集めるためには、通学の不便を一日でも早く解消する必要があると思います。押上駅ができれば、名立や桑取、谷浜や直江津から通学する生徒がふえる可能性があると思います。また、市外の高校へ進学しようとしている中学生や、中高一貫校を目指す小学生を引きとめることも、可能性が出てきます。

こうして早急に新駅を設置することにより、高校生等の通学の便を図りながら、日本海ひすいラインの乗客数をふやすべく、新駅設置計画を迅速に進めてほしいのですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

○建設課長（見辺 太君）

お答えします。

市としましても、新駅設置におきましてはなるべく早く利用できるように対応してまいりたいと思っておりますが、やはり今いろいろ調査をしている中では、今ほど議員は高校生の利用といった観点からお話しされておりますけれども、やはり市民の皆さんから使っていただく鉄道でない、やはり赤字続きの経営になってしまいますし、そこら辺の考え方をしっかりと皆さんで共有した中で、新駅づくりについて進めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

先ほど出生数が減ったのを申し上げましたが、このまま余り先になると、子供たちの数が少ないのに駅要るんかって話になっても、非常に困る気がします。今まで50年間も我慢して通学した子供たちのこともありますし、ぜひ急いでやっていただきたいと思います。10月に能生地区で行われた糸魚川市の駅伝競走大会には、えちごトキめき鉄道チームも参加して、大会をにぎやかしてもらいました。糸魚川市もトキめき鉄道の株主です。トキめき鉄道とは共存共栄を図るべく、努力していただきたいと思います。

これで私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で佐藤議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶものあり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

関連質問なしと認めます。

暫時休憩します。

再開を50分といたします。

〈午後1時42分 休憩〉

〈午後1時50分 開議〉

○議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、新保峰孝議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

新保議員。〔8番 新保峰孝君登壇〕

○8番（新保峰孝君）

日本共産党の新保峰孝です。

私は、社会体育団体といじめ問題、農業の30年問題と地域農業、駅北大火の復旧復興、新しいごみ焼却施設について、米田市長、田原教育長のお考えを伺いたいと思います。

1、社会体育団体といじめ問題について。

(1) 義務教育と部活動についてどのように考えているか。

- ① 義務教育（中学校）における部活動は、どのように位置づけられているか。
- ② 部活動の責任は誰が負っているか。
- ③ 部の創設改廃は誰が決めるのか。
- ④ 家庭との連絡・連携はどのように行われているか。
- ⑤ 家庭内において生徒が暴力事件を起こしたと仮定した場合、学校はどのように対応するか。学校に責任はあると考えるか。家庭との関係はどのようなものか。どのように対応するか。

(2) 部活動と社会体育団体との関係についてはどのようになっているか。

- ① 中学校の部活動は学校が責任を負う活動と思うが、学校での実態がない能生中学校（相撲）等の責任は誰が負っているのか。
- ② 相撲の社会体育団体が中学生のスカウト活動を行っているとの話を聞いたことがあるが、中学校での義務教育における部活動との関係はどうか。
- ③ 昨年、9月23日に行われた市民総合体育祭開会式の優秀競技者表彰で、相撲連盟が推薦した方たちが表彰されたが、いじめや暴力事件があっても勝つことだけ、成績がよければよいというような指導者の考え方ではないかと思わざるを得ない。いじめをなくそうという中学校の取り組みと相反することを行っているように思える。どのように考えるか。

④ 相撲競技に係る学校、教育委員会事務局、社会体育団体、生徒宿舍、家庭の役割と連携